

クリーンな工場

生産段階での取り組み

スバルでは、ムダ・ロスを排除し工数や製造原価の低減を行いながら、省エネルギー活動にも積極的に取り組み、環境保全への取り組みを推進しています。

また、廃棄物物理立量については、2004年度に全生産事業所においてゼロレベルを達成し、現在も継続中しています。

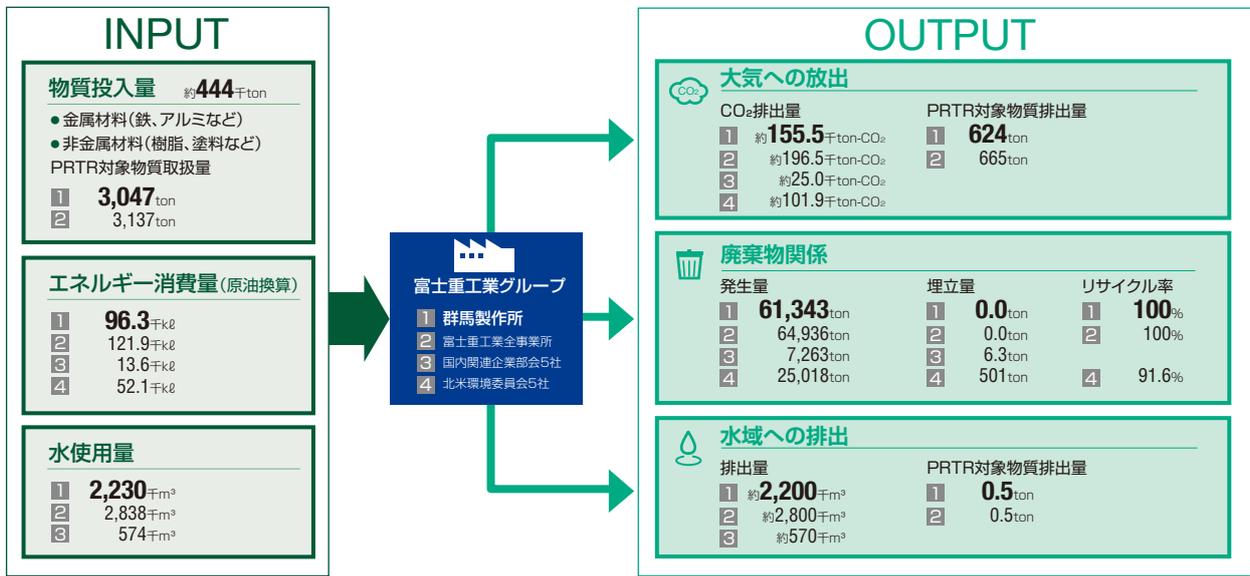
生産段階での取り組み

自動車製造(群馬製作所)における主な投入資源量と発生物総量

スバル車を製造する群馬製作所を中心とした2009年度の主な投入資源の量と環境への排出量は下図のとおりです。

[下記表中の数値: ■群馬製作所、■当社全体、■国内関連企業部会5社合計、■北米環境委員会5社合計]

◆投入資源の量と環境への排出量



地球温暖化防止活動

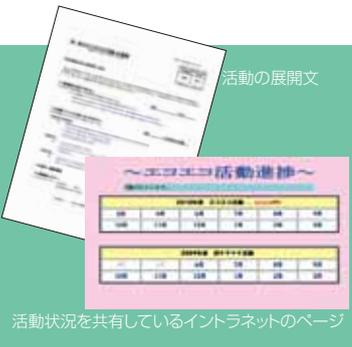
CO₂排出量削減と省エネルギー活動

当社では、これまでに天然ガスコージェネレーションシステム導入、重油ボイラーのガスボイラー化、待機電力の削減、エネルギー多量消費工程に絞った省エネルギー活動の展開など、CO₂排出量削減と省エネルギーのためにさまざまな活動を展開してきました。年度により生産量の増減などありますが、2009年度のCO₂総排出量は約196.5千ton-CO₂となり、1990年度比28%の低減となりました。

第4次環境ボランティアプランで掲げている2010年度に「1990年度比15%のCO₂総排出量の削減」という目標に対し、「1990年度比22%のCO₂総排出量の削減」に上乗せした目標を設定しチャレンジしています。

群馬製作所の省エネ活動

自動車製造の群馬製作所では、「省エネケチケチ活動」の名称で製造部門各課単位で毎月改善アイテムの抽出や省エネパトロールなどを実行し、「きめる、とめる、なおす、さげる」を合言葉に、全員参加で省エネ活動を進めています。なお2010年度からは、名称を「エコエコ活動」に変えて活動を進めています。



活動状況を共有しているイントラネットのページ

代替フロン(HFC134a)の大気放出量の低減活動

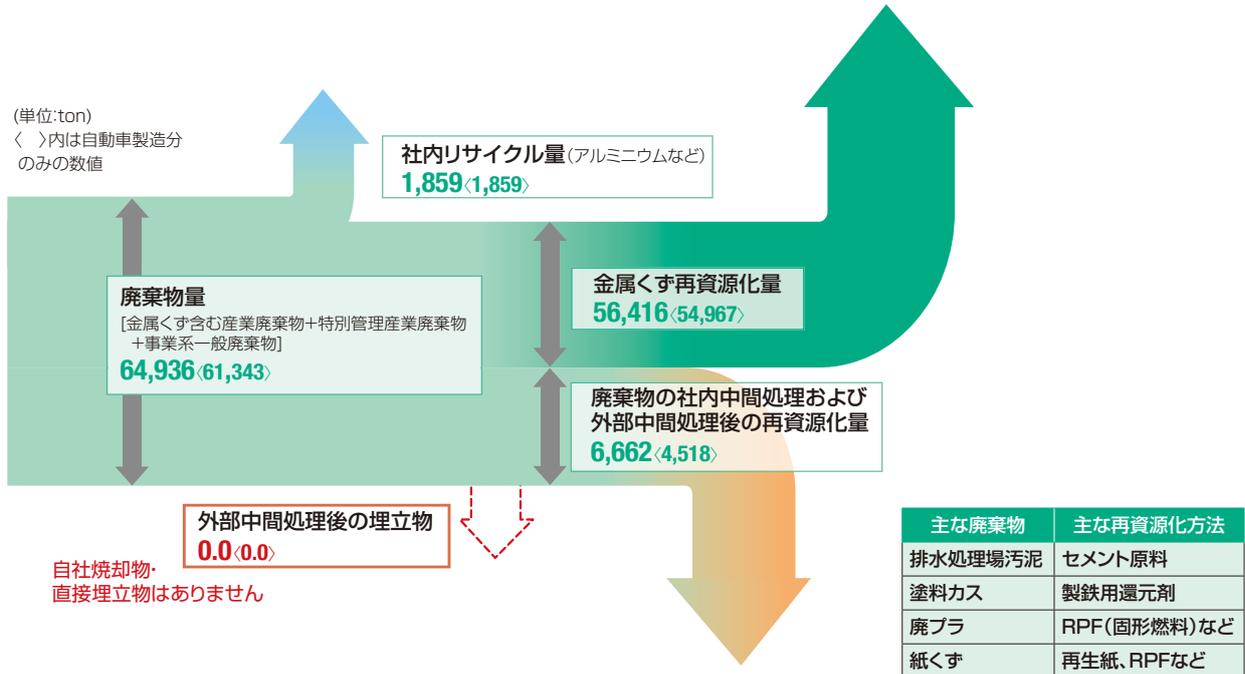
群馬製作所の自動車生産ラインでは、エアコンガス用の冷媒として使用されている代替フロン(HFC134a)の大気への放出量を削減するため、これまでにエアコンガス注入時や回収時の漏れを極小化する取り組みを重ねてきました。その結果、2003年度からは1996年度実績に対して95%以上の大気放出量削減を達成、2006年度からは約97%の削減を達成し、継続しています。

廃棄物削減

埋め立て物発生量は全工場でゼロレベルを継続中

当社では、2004年度から廃棄物のゼロエミッションを継続達成しています。2009年度の廃棄物発生量とその処理概要は下図のとおりです。

◆2009年度全事業所および自動車製造(群馬製作所)の発生物発生量と処理の概要



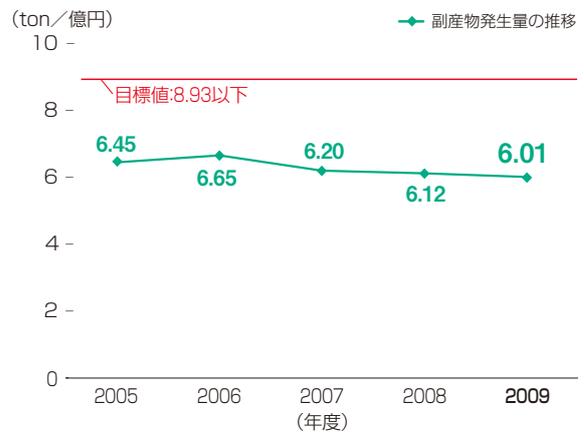
廃棄物削減への取り組み

当社では、ゼロエミッションの継続はもちろん、廃棄物が発生すること自体をムダと考え、発生量を削減する取り組みを進めています。

生産工程で使用する原材料の歩留まり向上や、塗装工場で使用される塗料の塗着効率の向上などの取り組みを進めて、資源の有効利用に努めています。

右のグラフは、自動車部門の副産物(金属くずやアルミなどの非鉄くず)の発生量を製品の生産高で割った指標です。2009年度は6.01と過去最良の値となりました。また目標値(資源有効利用促進法による副産物発生抑制計画値)に対しては2003年度から連続7年達成しています。

◆製品の生産高に対する副産物発生量の推移



水資源使用量低減への取り組み

水資源の保全活動

2009年度水使用量は全事業所合計で約2,838千m³で、前年度比15%の低減となりました。

これは各事業所で、給水管の老朽更新のほか、漏れの

点検などきめ細かな低減活動を実施してきた効果です。ベンチマークとしている1999年度と比較しても54%の低減と、半分以下の使用量となっています。

*水使用量の推移については46ページに掲載しています。

環境負荷物質の低減活動

化学物質の管理活動(PRTR制度)

当社ではPRTR対象18物質を使用しています。2009年度の排出量は全事業所合計で665トンとなり、前年度に比べ約17トン削減できました。これは、自動車ボディーや塵芥収集車の塗装工程で使用する洗浄用シンナーの使用量低減などの取り組みによる成果です。

*PRTR対象化学物質排出量などの推移については46ページに掲載しています。

土壌・地下水汚染防止

当社では、1998年より自主的に各事業所の土壌、地下水の調査を行い、その結果を行政に報告してきました。宇都宮製作所など土壌・地下水の浄化対策を行った事業所においても、引き続き地下水のサンプリング調査を継続的に行い、結果を行政に報告しています。

大気汚染物質

ボイラーなどの特定施設より排出される窒素酸化物(NO_x)、硫黄酸化物(SO_x)の全事業所合計排出総量の推移は46ページのグラフのとおりです。

SO_x、NO_xともに2009年度の定期測定の結果はすべての測定個所で自主基準値を順守しています。

PCB機器などの保管状況

当社では、法規を順守し、適切にPCBを保管し、毎年度届出を行っています。

保管しているPCB含有機器(トランス・コンデンサーなど)については、2006年3月に日本環境安全事業(株)(JESCO)に早期処理の登録を行っており、2011年度から処理・処分が開始される予定です。

水質汚濁物質

排水中の窒素・リン・BODの全事業所の排出総量の推移は46ページのグラフのとおりです。

また、2009年度の定期測定の結果では1件の自主基準値の超過がありました。詳細については45ページの環境法規制の順守状況の「環境法規制値超過件数と内容」欄に記載しています。

*そのほか、各事業所の特徴的な取り組みについては、63～92ページのサイトレポートにも掲載しています。

群馬製作所の塗装工程で発生するVOC (揮発性有機化合物)

2009年度の塗装面積あたりのVOC排出量は52.8g/m²で、2000年度実績に対して42.2%削減となり、第4次環境ボランティアプラン^{*1}の目標を前倒しして達成しています。これは、塗装工程の洗浄用シンナー回収率向上などの成果です。今後はさらに低減の上乗せに取り組んでいきます。

*1 第4次環境ボランティアプラン目標値
2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。

クリーンな物流

物流における環境負荷低減に向けて

スバルでは、完成車輸送において最適な輸送ルートの設定、モーダルシフトの推進、同業他社との完成車共同輸送の取り組みなどにより、環境負荷低減に貢献しています。また、梱包資材の再利用による資材削減活動にも積極的に取り組んでいます。

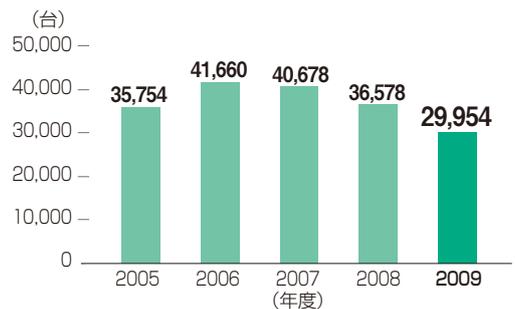
完成車輸送における環境負荷の低減

スバルロジスティクスの取り組み

完成車の輸送では、最適な輸送標準ルートの設定、モーダルシフトの推進、積載効率向上などの輸送の効率化を進めることで環境負荷低減活動に貢献しています。また、スバルロジスティクスでは同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2009年度の共同輸送取扱量（他社への委託台数と他社からの受託台数の合計）は、29,954台となりました。

2009年度も、デジタルタコグラフの拡大、アイドリングストップ装置、エコタイヤの装着を推進し、定期的に協力会社から走行距離・燃費データを集約することでより精度の高いエネルギー消費量（含むCO₂排出量）の把握を行いました。結果、前年比約1%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に行っています。

◆共同輸送取扱量の推移



梱包資材の再利用化

海外向けノックダウン部品梱包資材の再利用による資材削減活動

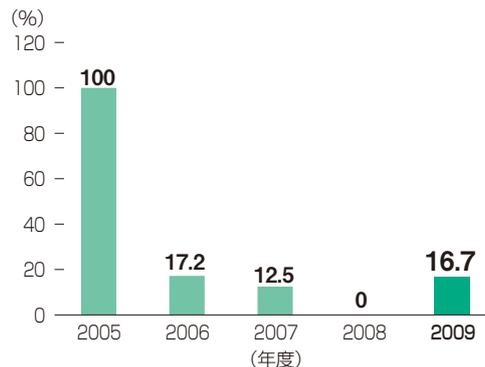
ノックダウン部品の梱包荷姿設計を担うスバルロジスティクス部品物流本部では、梱包資材の再利用化を柱に環境負荷低減活動に取り組んでいます。取り組み内容としては2006年3月から発泡スチロール梱包資材と真空成型梱包資材の再利用化を図り、2008年度は資材購入を‘ゼロ’に抑え、すべて再利用資材で出荷できました。また、2009年度より導入した新規発泡スチロール梱包資材は、再利用化を考慮にいれた部品梱包荷姿設計を行い、出荷を開始しました。

今後はさらに再利用化を進めるため、現状梱包資材の総点検を行いリユース資材の拡大を図り、廃棄物を発生させないよう取り組んでいきます。

◆発泡リユース対象資材取扱量推移



◆発泡リユース対象資材購入量



クリーンな販売店の拡大を目指して

スバルでは、販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために環境マネジメントシステム「エコアクション21」の導入を推進しています。お客さまの環境意識が高まるなか、エコカーの普及と同時にクリーンな販売店を目指して取り組みを加速させていきます。

SUBARU販売特約店での環境保全取り組み

エコアクション21 (EA21^{※1})の 認証取得を推進しています

当社では、国内の販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために、環境省がISO14001^{※2}をベースに策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21 (EA21)」の導入を推進しています。2008年9月から取り組みをスタートし、2010年3月現在では、国内45社中20社が認証を取得しています。引き続きEA21の認証取得店の拡大を進めていきます。

- ※1 EA21の認証取得には以下の施策が求められます。
 - ・環境マネジメントシステムの構築
 - ・CO₂排出量、廃棄物、水使用量の把握、削減目標の設定と取り組み
 - ・環境活動レポートの定期的な作成と公表
- ※2 ISO14001の認証については以下の2社が取得継続しています。
 - ・富士スバル(株) ・大阪スバル(株)
- ※3 九州地区は、統括会社の「福岡スバル株式会社」名で事業会社5社を含めた合計6社一括で認証を取得しています。
- ※4 栃木スバル自動車(株)のEA21認証取得活動については、特集の15ページで紹介しています。

◆EA21の認証取得状況[2010年4月1日現在 取得順]

販売特約店名	認証取得日	認証・登録No.	スバル新車 取り扱い店舗数
東京スバル(株)	2009年1月27日	0003261	32
埼玉スバル自動車(株)	2009年2月25日	0003347	18
名古屋スバル自動車(株)	2009年4月30日	0003592	19
東四国スバル(株)	2009年5月29日	0003691	10
四国スバル(株)	2009年5月29日	0003692	8
広島スバル(株)	2009年6月23日	0003777	8
岐阜スバル自動車(株)	2009年7月21日	0003889	9
山口スバル(株)	2009年7月31日	0003965	10
三重スバル自動車(株)	2009年8月28日	0004068	7
神奈川スバル(株)	2009年8月28日	0004069	24
山陰スバル(株)	2009年8月28日	0004070	9
岡山スバル自動車(株)	2009年8月28日	0004071	7
南信スバル(株)	2009年9月29日	0004188	1
福岡スバル(株)	2010年3月11日	0004737 ^{※3}	19
西九州スバル(株)			12
熊本スバル自動車(株)			8
大分スバル自動車(株)			5
南九州スバル(株)			12
新沖縄スバル(株)			3
栃木スバル自動車(株) ^{※4}			2010年3月18日



三重スバル自動車(株)の認証授与の様子 山陰スバル(株)の認証授与の様子 南信スバル(株)の認証

Close Up

東京スバル(株)が取り組みを披露



2009年6月には、エコアクション21地域事務局東京中央主催の「エコアクション21導入セミナー」において、東京スバル(株)の添野常務がエコアクション21の導入を検討している企業の皆さまに向けて「エコアクション21認証取得について」と題した講演を披露しました。